



陳言コラム-20

中国雑談

### 中国人は海外代理購入にハマっていったのか？

春節休暇が終わり、筆者の友人は、ぞくぞくと海外から北京に戻り、お土産を配っている。日本から帰ってきた人は、ステレオタイプのように馬油をくれる。かつて日本にいたとき、一度たりとも店から馬油を見つけたことはない。観光客が買うとなると、ヒットになり、今は日本の代表となった。12月に寧波にある越境Eコマース企業を取材すると、「爆品」(売れ筋製品)のベストに入っていることがわかった。春節が終わり、海外で珍しいものをたくさん発展した観光客は、これからどんな商品を越境Eコマースに依頼するだろうか。一方、ある消息筋によると、国内での消費を促進するために、中国政府は今後海外での代理購入を大幅に制限する可能性があるとのことだ。

海外代理購入も初めの頃は、家族や友人のために行う個人的な行為に過ぎなかった。海外で仕事や留学をしている人が、毎年里帰りの際に家族や友人から頼まれた化粧品や腕時計、革製のバッグなどを買って帰り、頼んだ人は一定額の「手間賃」をお礼として渡すといった感じだった。一部の人々はこうした代理購入に商機を見出し、彼らは海外にいる友人たちと連携して、顧客の欲しいものを代理購入するというサービスを始めた。2007年に、多くのインターネット企業が海外代理購入に目を付けて、ビジネスを展開し始めた。さらに海外ネット通販を専門にしたサイトや企業も出現し、より多くの人が高品質で値段も手ごろな海外商品を購入することができるようになった。

2008年のメラミン・シアナミド混入事件により、海外代理購入は大いに潤った。中国国家質検総局が後に牛乳の質に関する事件はすでに適切な対処がなされたと表明したとはいえ、2011年に中国中央テレビが行った「毎週質量報告」という調査では、まだ7割もの一般市民が国内産の粉ミルクを買う気になれないと感じていることが判明した。同時に、国内で買える輸入品の粉ミルクはニセ海外ブランドではないかと心配する人も少なくない上に、頻繁な値上げも重なったため、中国市場で流通している海外製粉ミルクの価格は、国外価格の2、3倍になってしまった。それゆえ困惑し、疑念を抱く中国の親たちは海外代理購入を利用するか、もしくは自ら海外に赴いて海外製粉ミルクを購入するという



手段を取り始めた。

その後、海外代理購入で扱われる商品のジャンルが日に日に拡大し、こうして中国の特色を備えたビジネスモデルが世界を席卷し出した。欧州や日本などでは、ショッピングモールや商店で中国語の買い物指南が掲示されるようになり、銀聯カードが使えるようにさえなった。2008 年以降、マタニティ用品以外に、ぜいたく品の代理購入に対する人気も上昇の一途をたどっている。ベイン・アンド・カンパニーが発表した『2013 年中国ぜいたく品市場研究』では、中国におけるぜいたく品の取引量は 1160 億ドルに達しており、その大部分は海外代理購入によるものだ。

他に、電子製品の熱狂的なファンたちも海外代理購入によってさまざまな新製品をいち早く手に入れようとしている。生活の質の向上を望む一部の中国人は、一般人が目を向けないような奇抜な商品にさえ注意を払っている。2015 年、訪日した中国人旅行客は、日本の「定番商品」である炊飯ジャーだけでなく温水洗浄便座も先を争うように購入し、秋葉原のある量販店では彼らの購入によって品切れになったという。

信頼できる品質以外に、これほどまでに海外代理購入が中国人に人気となっている大きな理由は、海外商品の手ごろな価格だ。特にぜいたく品の価格においてはそれが顕著に表れている。商務部の調査によると、腕時計やバッグ、衣料品など有名ブランド 20 種類の高級品の価格において、中国国内市場での価格は香港よりも約 45%、米国よりも 51%、そしてフランスよりも 72% も高い。

ぜいたく品が中国の国内外でこれほどまでに価格差がある最も大きな理由は、中国の非常に高い税金にある。実に、ぜいたく品において中国と海外で価格差が見られる原因の 70% から 90% が、税金によるものだ。その一方で、中国市場においてブランドの位置づけが異なるために価格差が生じるという原因が占める割合は、全体の 10% から 30% に過ぎない。

2016 年に入ってから円為替は 10% 以上も高くなり、日本のメディアは爆買いには影響が出ていると報道したが、その程度の比率ではほんとうに影響が出るだろうか。ヒット商品を日本企業によって中国の越境 E コマースに載せて売っていく動きは、なぜあまり聞かないのか、机の上に本数ばかり増えている馬油を見て、不思議に思う。